

「税」について考える

税務課 課税係 ☎0738-23-5504

中学生の「税」についての作文

日高納税貯蓄組合連合会、御坊納税協会、御坊税務署は、御坊税務署管内の中学生を対象に「税についての作文」の募集を行いました。1,729編の応募がありました。

審査の結果、御坊市内から西山友梨さんが、「近畿税理士会 会長賞」「公益社団法人御坊納税協会 優秀賞」に選ばれました。

近畿税理士会 会長賞

御坊税務署 優秀賞

河南中学校 3年

西山 友梨さん
にしやま ゆり



作文紹介

題名 身近な「税」から

学んだこと

「税金とは何か。」と聞かれると、私は全てを正しく説明することはできないと思う。でも税金のしくみなどを難しい言葉で説明できなくても、税金は身近なあらゆることに使われ、私たちのよりよ

い生活を支えてくれているということを知っている。

そこで、生活を支えてくれている人たちの施設について考えた。例えば私たちの安全を守ってくれている警察官や消防署員、自衛隊員。これらの人たちは身近な存在だが、毎日働いてくれているのは私たちの税金によって給料が支払われているからだ。税金がなければ社会はどうなってしまうのだろうか。想像するとおそろしく、税金があつてよかったと心からそう思う。

先日、改めてそう感じた出来事があった。それは静岡県熱海市の土砂災害だ。ニュースでは、消防署の人たちが行方不明の方々の捜索活動を行っているところを放送していた。もし税金がなく、捜索活動ができていなければどうなっていただろうか。とても怖くなった。これに限らず、もし火事が起こっても誰も助けてくれなかったら、もし罪を犯した人が逮捕されなかったら等、考えるときりがない。それくらい、税金は生活をつないでくれる大切なもので、私たちに欠かせないものだと思った。

他にも、今世界中で接種されている新型コロナウイルスのワクチンも税金により各市町村に配られ、使われている。人々の健康も税金があるからこそ守られており、もしそれ 없ければ世界は大変なことになると思う。

また、私が当たり前のように中学校に通い、教科書で学び、安全

に通学路を通って登校できていることもそう。だから身近なところには税金が使われていることを意識し、今の私があることに感謝して生きていこうと思う。

現在、少子高齢化という言葉がよく耳にするようになったが、私は少し他人事のように感じた。でも少子高齢化により、将来高齢者の社会保障費用が増え、国民一人あたりの経済的負担が大きくなるということを知った。それは私の将来にも関わる深刻な問題だと気づき、どうするべきか考えた。それはやはり、国民一人一人が納税することだと思う。そのためにはまずみんなが税に関心を持つことが大切だと思う。その気持ちが積み重なれば、問題を解決する一つの大きな力になると私は思う。今の私には働いてそのお金を納税することはできなくても、その問題に関心を持ち、少しでも力の一人にはなれるはずだ。

私は今、十五歳だけれど、何年後には社会人として働くことになる。そのときには税の大切さを理解し、強い意志と責任感を持つ一人の大人、社会の一員として税金を納めたい。税金のしくみを難しい言葉で説明できなくてもよいと思う。本当の私たちの義務は、税金に関心を持ち、明るい未来を考えることから始まると私は思う。

令和3年度「税に関する中学生の標語」優秀作品

日高地方租税教育推進協議会は、税を考える週間（11月11日から17日）の一環として、「税に関する中学生の標語」の募集を行いました。

審査の結果、市内から右記の皆さんが優秀作品に選ばれました。

たくさんの 笑顔と暮らし 守る税

名田中学校2年 出口 真衣さん

学ぼうよ 税の仕組みと 使い道

湯川中学校2年 芝 優斗さん

税金で 救える命に 架け橋を

湯川中学校3年 芝 葵衣さん